

◆戸別収集・有料化全市実施説明会 Q&A

平成 25 年 7 月 27 日（土） 午後 6 時 30 分から午後 7 時 30 分

場所 鎌倉生涯学習センター 第 5 集会室

参加者 40 名

- 1 鎌倉市のごみの現状について
- 2 戸別収集・有料化説明 DVD 上映
- 3 モデル事業等についての概要説明
- 4 質疑応答

Q 戸別収集・有料化にあたり、経費が増額するとあるが、それは職員を増やす等の人件費が増額するためなのでしょうか。

A 経費増額の主な原因は、収集業務を委託している民間事業者を支払われる収集員及び収集車両に係る経費が増加するためであり、職員を増やすということではありません。

Q 収集車両に係る経費が増加するのは何故でしょうか。

A 戸別収集の実施によって収集する件数が多くなります。

収集を時間内に終えるため、収集車両を増加する必要があります。

Q 改修工事等で名越クリーンセンターの焼却量を増やすことはできないのでしょうか。

A 現状でも名越クリーンセンターには 3 万トン以上焼却できる能力はあります。

しかし、地元の自治・町内会と焼却量は 3 万トン以下に抑えると約束しているため、3 万トン以上の焼却はできないということになっています。

Q 12 月の議決について、現在どのような状況になっていますか。

A 現在、楽観視できない状況ではあります。

しかし、この施策が実施できない場合、焼却量を 3 万トン以下にすることは不可能となってしまう。

また、新たな焼却施設はすぐに建設できるものではなく鎌倉のごみが立ち行かなくなってしまうため、今後丁寧に説明をしていきたいと考えています。

Q パンフレットには記載がないですが、敷地の前にごみを置くスペースのない家庭はどのようにすればよいのでしょうか。

A ごみを置くスペースがない家庭については、市職員が伺い個別に対応させていただくことを予定しています。

Q 自宅の道路は車が進入できないほど狭隘なのですが、ごみの収集に問題はありませんか。

A 車が進入できない狭隘な道路については、収集員が歩いて収集します。

Q 通行人の不法投棄に対応できる鍵付きカラスボックスに対する補助はないのでしょうか。

A 補助については、現在のところ考えておりませんが、ご意見として承ります。

Q パトロールはどのように考えているのでしょうか。

A パトロールの詳細は決まっておりませんが、不法投棄されたごみが放置されると、そこに更なるごみの不法投棄が起きる可能性があるため、不法投棄が放置されないようなパトロール体制を考えています。

Q ごみ半減計画は何故達成されなかったのでしょうか。

A ごみ半減計画では、資源物の分別等を行いごみの減量を図ろうとしましたが、目標値に届かなかったため、達成されませんでした。

- Q 事業系ごみの減量目標値が大きく感じるが、どのような施策を考えているのでしょうか。**
- A 他市で大きな減量効果があったベルトコンベア式ごみ投入検査機の導入及び事業系ごみの手数料改定による減量を目指しています。
- Q 名越クリーンセンター焼却炉について、改修後の稼働年数はどれくらいでしょうか。**
- A 現在の改修後 10 年間の稼働を予定しています。
- Q 戸別収集モデル事業を実施して得た情報や戸別収集先行市から参考にした点はなんですか。**
- A モデル事業の実証結果からは、鎌倉の特徴である谷戸地形であっても戸別収集は実施可能であること及びごみの減量が図れることが実証できました。
- また、戸別収集モデル地区の住民を対象に行ったアンケートから、本事業の改善に必要な事業の長所、短所について、ご意見をいただくことができました。
- 先行他市の事例からは、有料化の効果的な手数料の金額が設定できました。
- Q 家庭系ごみの有料化はどうして実施するのでしょうか。有料化を実施する前に別の減量策は実施できないのでしょうか。**
- A 今まで、本市ではリサイクルの推進をはじめ、様々な施策を進めてきました。しかしながら、更なるごみの減量を進めることが可能な施策が少なく、家庭系ごみの有料化はそのなかでも大きな減量が期待できる施策です。
- 今泉クリーンセンターの焼却停止を間近に控えた今の状況では、実施せざるをえない施策となっています。
- なお、家庭系ごみの有料化は全国的に実施されている施策です。
- Q カラス対策のごみ箱が家の前に設置されるのは、景観上よろしくないように感じるが市ではどのように考えていますか。**
- A 景観上の問題から、市でごみ箱を指定した方が良いという意見がありましたが、家ごとに状況が異なり、市の方で指定することは考えていません。
- そのため、市ではより良いカラス対策を実施できるように、事例紹介を行っていかうと考えています。
- Q 収集車の台数が増えてしまうのは何故でしょうか。**
- A 今泉クリーンセンターの焼却が停止した場合、収集車が収集したごみを降ろす場所が名越クリーンセンターだけになってしまい、名越クリーンセンターから遠い地域では収集の回転率が悪くなります。
- 回転率が悪くなるなかでも、時間内に収集を終えるため、収集車の台数を増加する必要があるためです。
- Q 収集車の台数を増やすのではなく、夜間や早朝の収集は対応できないでしょうか。**
- A 夜間収集については、燃えないごみ等の収集で、作業音が夜間の寝静まった家庭にとって騒音になってしまうこと、及び鎌倉では街灯のない集積場所が多く収集作業の効率が悪いこと等の問題点があります。
- 相模原では夜間収集を行っている地域はありますが、そこは夜間でも明かりが確保できている地域となっています。
- 本市でも、一部地区なら実施は可能かもしれませんが、収集効率及び収集の安全面を考慮し、現在のところ夜間収集の実施は難しいと考えています。